

インド・チェンナイ都市圏における農地利用に関する研究

王 子逸

キーワード：土地利用の変動、都市化、人口、農村地域、農地管理

1. 研究の背景

農地は農家の生存の基盤となるものである。農地の利用と転用は、農地資源を保全するか破棄するかを含めた総合的な土地利用バランスに影響を与えており、持続的かつ適切な農地利用は、土地資源の合理的利用という総体的目標に対して大きな意義がある。現在、世界各国の市街地の大部分の非都市的土地利用は、住宅地や工場敷地など、諸々の都市的土地利用へと急速な変化が進んでいる。このような現象はとくに発展途上国で顕著であり、都市の中心地域から郊外へと土地利用の転換が拡大している。

インドにおいては、近代的産業システムの確立と発展と共に、工業化の産物として都市化は総量、範囲共に増加の一途をたどっている。また農村の住民の多くは、このような都市化の進展に伴い、彼らの主要な生活資源である土地を失い、彼らの意思に反して故郷を去り、離農を強いられることも多く、大きな社会問題となっている。

2. 研究目的

- (1) インド・チェンナイ市のマドラス大学でのインターン研修を利用して、地元住民へのインタビューと実地調査を行い、これに基づいてチェンナイ市の農地利用の現況及び土地利用の変化過程を把握すること。
- (2) 衛星画像（1991年と2006年のもの）を利用して、チェンナイ市の土地利用変化を分析し、土地利用変化の要因を探ること。そして、これまでの土地利用変化の傾向から、今後の土地利用展開について予測すること。
- (3) 土地利用、とくに農地の転用の要因を整理し、合理的かつ効率的な農地管理を実現する方策について展望を示す。

3. 研究方法

- (1) インド・チェンナイ市におけるインターン研修期間は2011年8月22日から2011年11月4日までのおよそ2ヶ月半であった。当該地域の自然的条件、土地利用の類型その他諸々を把握するための実地調査を行い、農村地域の住民の日々のライフスタイルと現地の社会的、経済的状況についての情報を収集するため彼らにインタビューを行った。主な調査地域として、インドの北部、中部、南部からの移住者が多く、土地利用上明らかな矛盾を抱えた典型的な3地域を選定した。
- (2) 衛星画像解析及びGISによる土地利用に関する種々の分析を通じて上記研究目的にとり組んだ。

4. 研究結果

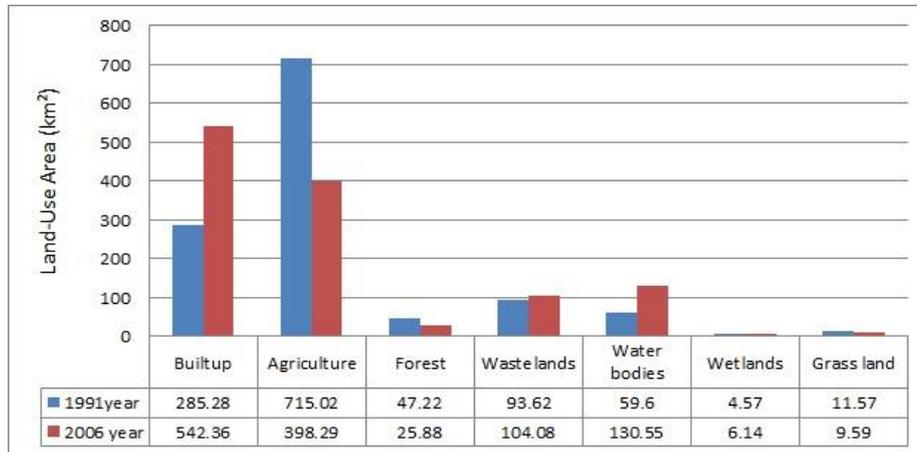


図1 1991年と2006年における土地利用変化分析結果

- (1) チェンナイ市における都市化は少なくとも20年前に開始し、現在もなお急速なペースで進められている。郊外地域に位置する農地の大部分は都市のさらなる経済的発展のために奪われている。そして実際に、より多くの村民たちが出稼ぎ労働のために都市部へ移住することを余儀なくされている。
- (2) 1991年、2006年の衛星（LANSATSAT）画像を解析した結果（図1）、市街地が著しく増加している一方、農地の約半分が減少していることが明らかとなった。これらの農地の大半は住宅地に転用されたものであり、この傾向は今もなお継続している。
- (3) チェンナイ市における農地消失は都市化の進行によることは明白である。この急激に進む都市化過程のもとで、現状の土地利用問題を解決するには、適切なチェンナイ市の総合的地域開発計画を早急に策定し、現実的で効果的な計画実施のための各種事業が進められなくてはならない。その際、国および地方政府は住民のニーズを満たした上で、地域全体の経済・社会発展を遂げる持続可能な開発を推し進めることが肝要である。